

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が21例(男性12例(20歳代5例, 30歳代4例, 40歳代2例, 70歳代1例), 女性8例(20歳代7例, 40歳代1例), 未就学児1例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は284例となりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
 - 新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
 - 京都市衛生環境研究所にゅーす 令和2年度 第1号(通巻139号)(特集!新型コロナウイルス感染症!)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/news2020-01.pdf>
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状は尿路感染症及び菌血症で, 感染原因は以前からの保菌です。本年の累積報告数は15例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(80歳代男性)(第26週追加報告分)ありました。症状は意識障害, 髄膜炎, 菌血症及び低体温で, 感染地域は国内です。本年の累積報告数は18例となりました。
- 梅毒の報告が2例(20歳代及び50歳代男性)(第26週追加報告分含む)ありました。いずれも感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は33例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
- 咽頭結膜熱(プール熱)の報告は, 全国では少ないながらも, やや増加傾向です。京都市の報告はわずかですが, 例年夏にかけて報告が増え流行時期となります。発生動向に注意し, 手洗いやうがいでの予防しましょう。
予防啓発には下記URLからダウンロードできるポスターもご活用ください。
 - 京都市こどもの感染症(京都市衛生環境研究所発行)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>
 - こどもの感染症7月号(プール熱)(ポスター用PDF形式)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000146/146238/KoDoMo02-07.pdf>
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は1.53(66例)で前週の2.19(94例)から減少しました。全国では2.06で, 第19週の0.73から8週連続で微増傾向です。京都市及び全国ともに, 現在は流行している状態ではありませんが, 高温多湿で食中毒が発生しやすい気候が続いています。手洗いやうがいの励行, 食品の十分な加熱, 調理器具の消毒など予防に努めましょう。
- 突発性発しんの報告は, 5月下旬ごろから, 全国では5年平均値と同程度, 京都市では週によって過去5年平均値を上回って推移していますが, 現在ところ流行と言える状況ではありません。

◆ 今週のトピックス: <災害と感染症>

7月8日大雨の影響により, 京都市内の一部の地域で警戒レベル4(避難勧告)が発令されましたが, 9日以降解除されました。災害と感染症について, 詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 124例(肺結核 59例, その他結核 26例, 潜在性結核感染者 39例)うち喀痰塗抹陽性 27例】
- 指定感染症:新型コロナウイルス感染症 21例【1月以降の累積報告数 284例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 18例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 33例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

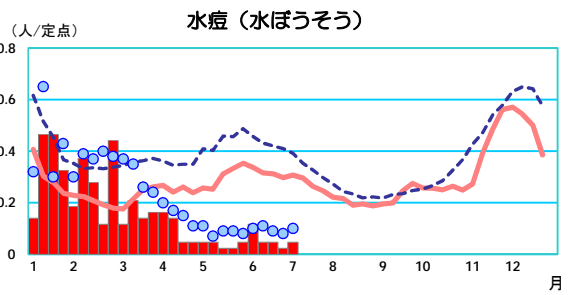
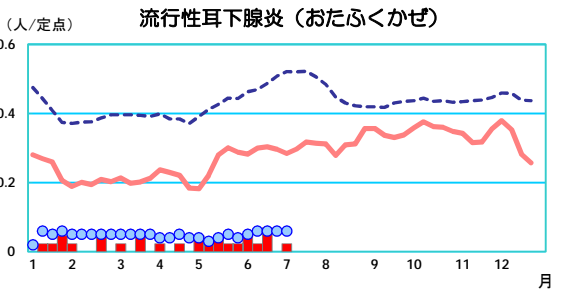
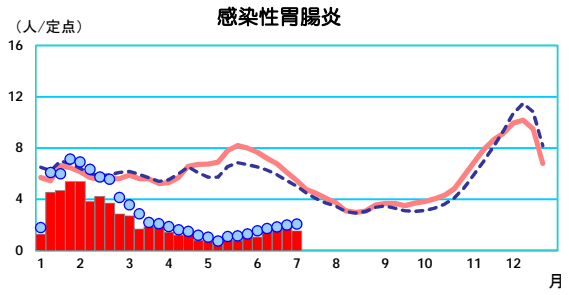
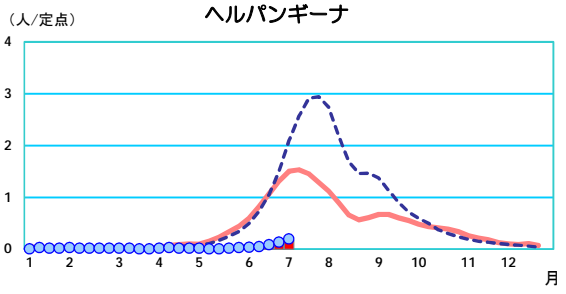
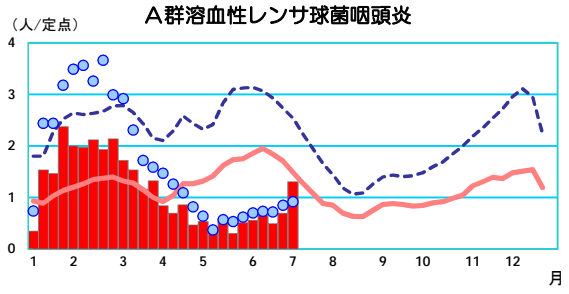
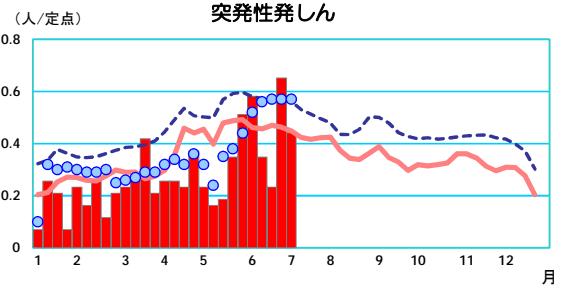
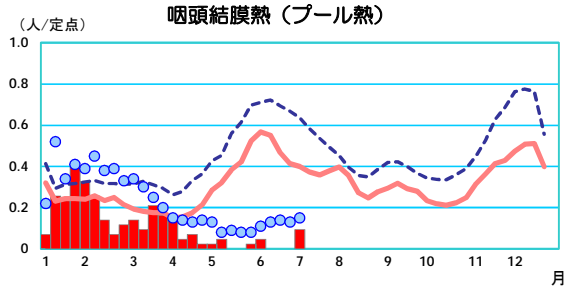
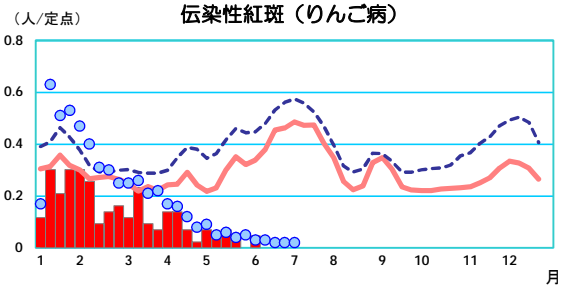
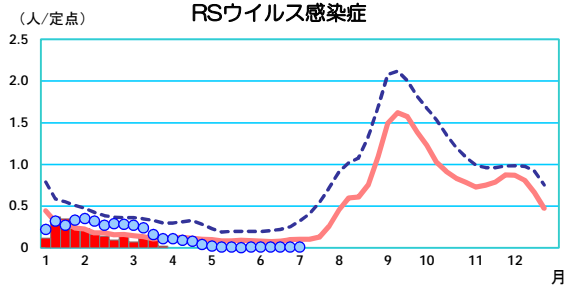
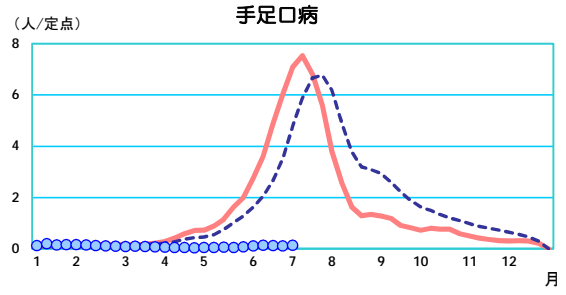
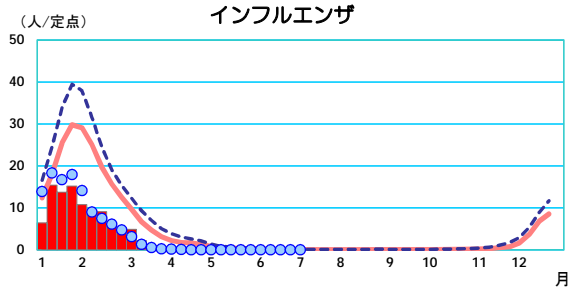
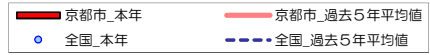
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.53	66
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.30	56
	③ 突発性発しん	0.44	19
	④ 手足口病	0.16	7
	④ ヘルパンギーナ	0.16	7
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

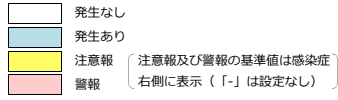
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <災害と感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年7月8日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

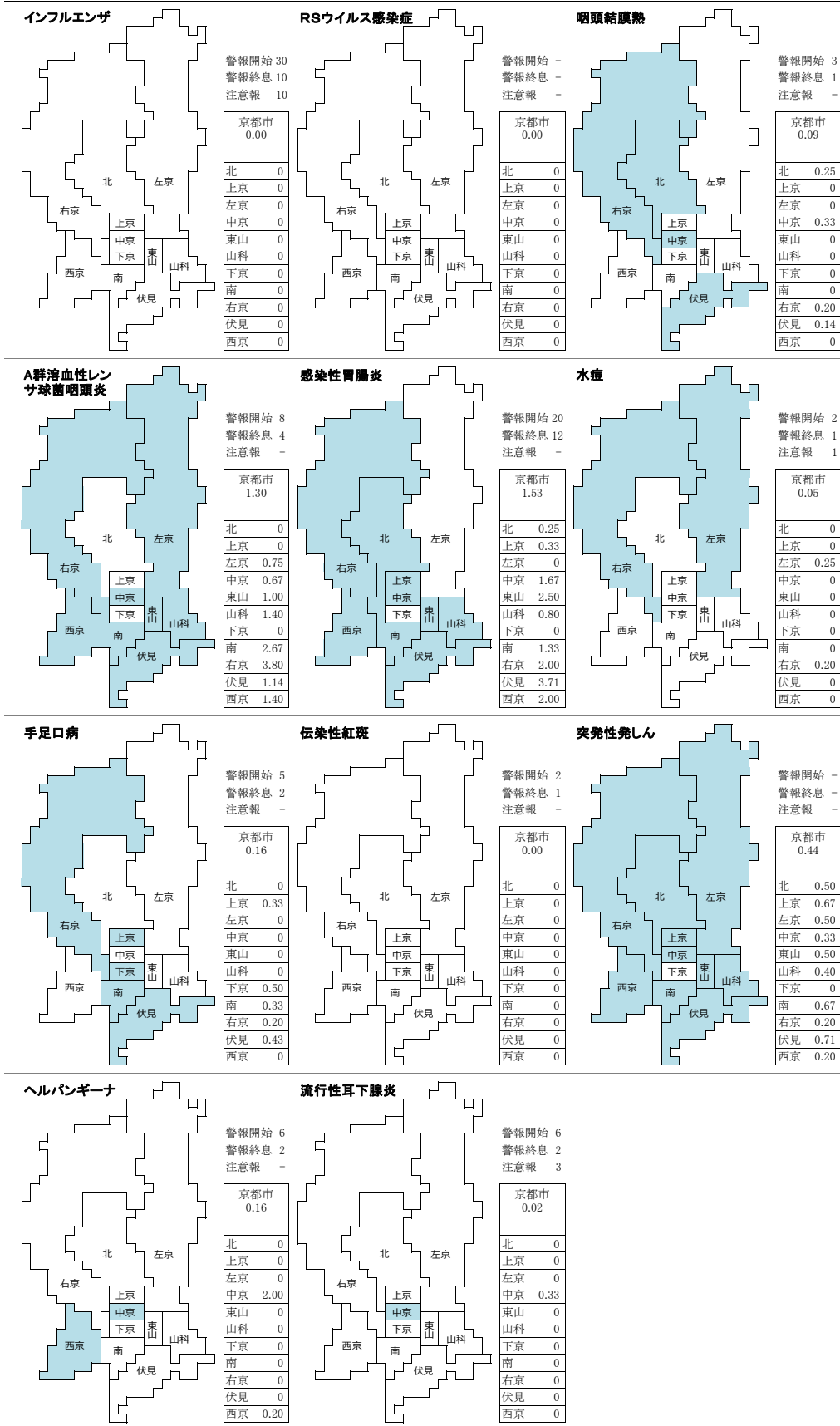
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第27週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第27週(6月29日～7月5日)トピックス: <災害と感染症>

7月8日大雨の影響により、京都市内の一部の地域で警戒レベル4(避難勧告)が発令されましたが、9日以降解除されました。避難勧告による警戒レベルは、平成31年3月に改正され、住民の取るべき行動と気象庁等の発表する防災情報が表1のように整理されました。

表1 防災気象情報と相当する警戒レベルについて

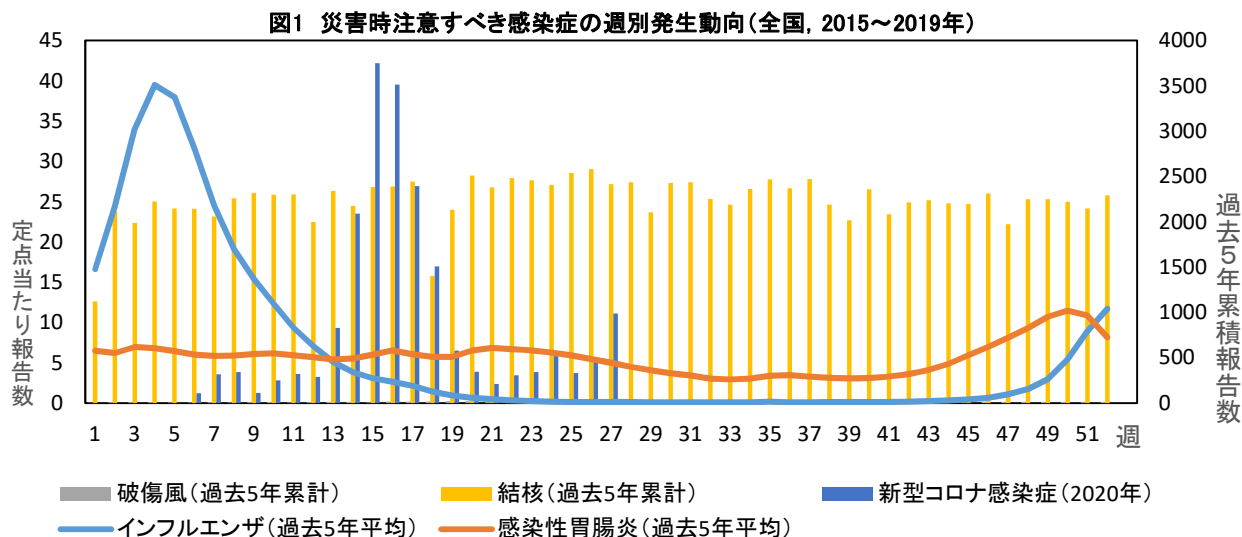
警戒レベル	住民の取るべき行動	気象情報等
警戒レベル5	災害がすでに発生。命を守る行動	大雨特別警報、氾濫発生情報
警戒レベル4	避難勧告の目安。	土砂災害警戒情報、氾濫危険情報、高潮特別警報等
警戒レベル3	避難準備。高齢者等の避難。	大雨警報、洪水警報、氾濫警戒情報等
警戒レベル2	避難行動の確認	大雨注意報、洪水注意報、高潮注意報等
警戒レベル1	災害への心構え。防災気象情報等の留意	早期注意情報

わが国及び京都市は、廃棄物の適正処理、浄化下水の整備、安全な水・食品、高いワクチン接種率、高い医療水準と、感染症リスクの面できわめて良好な水準を維持できています。しかし、災害時になると様相は一変します。感染症に対して無防備な環境となる上、体力消耗、睡眠不足、栄養不足、精神的ストレス、自然免疫の低下が重なり、災害弱者を生むこととなります。

日本公衆衛生協会・全国保健師長会編の「災害時の保健活動推進マニュアル」によると、災害時に注意すべき感染症としてインフルエンザ、感染性胃腸炎、破傷風及び結核が取り上げられています。そこでこれら4疾患の全国過去5年間(2015年～2019年)の週別発生動向を図1に示しました。インフルエンザと感染性胃腸炎は定点当たり報告数の過去5年平均を折れ線グラフで、破傷風と結核は過去5年間の累積報告数を棒グラフで示しています。また、2020年の新型コロナウイルス感染症の報告数(全国)を同じグラフに棒グラフで示しました。

インフルエンザは冬場、感染性胃腸炎は年間を通して報告があります。また、グラフ上ほとんど見えませんが破傷風は各週十数件、結核は数千件の報告がコンスタントにあり特に季節性は見られません。新型コロナウイルス感染症の全国報告数は、15週にピークを示し、以降減少しましたが27週にまた増加に転じています。

東日本大震災時には、同一避難所内で急速にインフルエンザが広がった例、当時関東・関西地域で流行していた手足口病が1～2ヶ月遅れて被災地で流行した例が報告されており、緊急援助者の持ち込みによる流行対策にも留意する必要があります。



災害時には感染症予防に必要な物資が充足しない事態を想定し、手洗い、咳エチケットも実際に手に入るもので柔軟に対応しなければなりません。

中でも手洗いは最も重要な感染予防策で、特にそのタイミングが重要です。断水等で流水が使用できない場合はアルコール消毒剤を使用するなど、可能な範囲で手指衛生に務めてください。

また、ワクチンで予防できる感染症もあり、平常時にワクチンを接種しておくことも一つの災害感染対策といえます。

断水等で流水が使用できない場合の手洗い方法、マスクがない場合の咳エチケット方法について、国立感染症研究所の下記アドレスのホームページにさらに詳しく紹介されています。

○ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/disaster/earthquake201604/2377-idsc/6433-kumamoto-qa-poster.html>

また、新型コロナウイルス感染症の現下の状況を受けて、従来の感染症対策に加え、「可能な限り多くの避難所の開設」、「親戚や友人の家等への避難の検討」といった、避難所が過密状態になることを極力防ぐ対策が求められています。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第27週

疾病,行政区別報告数

2020年6月29日～2020年7月5日

データ入手日:2020年7月8日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	3	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	1	2	5	-	-	-	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	2	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	7	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	8	4	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	1	19	10	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	8	26	-	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	7	10	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	4	56	66	2	7	-	19	7	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	0.25	-	0.25	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	0.25	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	0.33	-	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.75	-	0.25	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	0.33	0.67	1.67	-	-	-	0.33	2.00	0.33	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1.00	2.50	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.40	0.80	-	-	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	2.67	1.33	-	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	0.20	3.80	2.00	0.20	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	1.14	3.71	-	0.43	-	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1.40	2.00	-	-	-	0.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	0.09	1.30	1.53	0.05	0.16	-	0.44	0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第27週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年6月29日～2020年7月5日

データ入手日:2020年7月8日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		4	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		56	-	1	9	7	5	5	5	4	5	3	3	4	1	4						
感染性胃腸炎		66	1	6	9	5	4	5	2	4	4	3	3	14	1	5						
水痘		2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		7	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		19	-	10	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		7	-	2	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.09	-	0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.30	-	0.02	0.21	0.16	0.12	0.12	0.12	0.09	0.12	0.07	0.07	0.09	0.02	0.09						
感染性胃腸炎		1.53	0.02	0.14	0.21	0.12	0.09	0.12	0.05	0.09	0.09	0.07	0.07	0.33	0.02	0.12						
水痘		0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.16	-	0.02	0.05	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.44	-	0.23	0.19	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.16	-	0.05	0.07	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第27週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年7月8日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	2	-	-	-	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22	24	28	21	30	56
感染性胃腸炎	46	45	65	74	94	66
水痘	2	5	2	2	1	2
手足口病	5	6	8	8	2	7
伝染性紅斑	-	2	-	-	-	-
突発性発しん	22	25	15	10	28	19
ヘルパンギーナ	1	4	2	2	5	7
流行性耳下腺炎	1	2	1	3	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	2	1	5	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	104	115	123	121	165	162

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.01	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.02	0.05	-	-	-	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	0.56	0.65	0.49	0.70	1.30
感染性胃腸炎	1.07	1.05	1.51	1.72	2.19	1.53
水痘	0.05	0.12	0.05	0.05	0.02	0.05
手足口病	0.12	0.14	0.19	0.19	0.05	0.16
伝染性紅斑	-	0.05	-	-	-	-
突発性発しん	0.51	0.58	0.35	0.23	0.65	0.44
ヘルパンギーナ	0.02	0.09	0.05	0.05	0.12	0.16
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	0.02	0.07	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.30	-	0.20	0.10	0.50	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.64	2.67	3.01	2.89	4.22	3.77

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。